

## 農業情報総合研究所／いちじくレポート「観光農園の管理者、菊地秀喜さん」(仙台市) 「いちじくに導かれるように畑をつくる」

2023年6月24日、仙台市若林区荒浜にある観光農園を訪問しました。こちらは多数の果物を栽培されており、季節に応じて果物の収穫体験ができます。この観光農園の管理者である菊地秀喜さんにヒアリングすることができました。

こちらの観光農園は震災遺構である旧荒浜小学校の近くにあり、海岸までは700メートル。防潮堤と沿岸道路の間にあり、面積は11ヘクタールです。開設して4年目になります。いちじく、ぶどう、りんご、なし、いちごなどを栽培しています。ヒアリングに訪問した時は、ブルーベリーが旬でした。子ども連れがブルーベリー狩りをしていました。

菊地秀喜さんは宮城県の農業試験場に勤務し、果物を専門とされていました。定年退職後、この観光農園の母体が別の場所で開設している観光農園の管理者となり、その後、この観光農園の開設とともに移られました。

いちじくはビオレソリエス、バナナネ、カドタ、セレスト、ブルンスウィック、ブリジャリットグリース、リザ、ニュージーランド、ホワイトアドリアテックなどを栽培しています。ビオレソリエスは「香りも楽しめる」、バナナネは「皮が薄いので皮ごと食べられる、輸送には向かないが観光農園には向く」、セレストは「ケーキ屋さんに人気」、ブリジャリットグリースは「酸味もあり一番美味ではないか」などのお話がありました。なお、柵井ドーフィン は北限を越えており、栽培していませんでした。

いちじく狩りは9月から11月まで70日間行うことができます。この期間絶やさず、いちじく狩りを行うことができるように夏果（前年伸びた枝についた実）と秋果（その年の春から伸びた新しい枝についた実）の調整をしています。ハイシーズンには13種のいちじくを狩り、食べ比べをすることができます。また、この観光農園の直売所にて、13種のいちじくのケースを縦に重ねて購入するお客もいたそうです。

こちらは砂地です。根のポットのところだけ園芸培土となっています。あまり根が広がらず、いちじくの木が比較的小さいので、いちじくを植えている間隔が狭くなっています。いちじくの木だけでなく果実も小さくなり、糖度が高くなります。観光農園ということで、いちじく狩りがしやすいように、いちじくの丈が高くなり過ぎないようにするとともに、枝がV字になるようにしています。また、雨量の多い地域ですが、いちじくの栽培には水が欠かせませんので、配管した点滴チューブにより灌水も行っています。

菊地秀喜さんからは、「教科書に書いてあることと地域にいかにもモディファイ（修正）できるか?」「自分の経験で作った畑というよりは、導かれるように作った感が強い畑です。それが正解なのかどうかは10年待ちですね。すぐに結果が出ないのも果物栽培の面白さです」とのコメントをいただきました。

